

プレゼン例 1

四診

2

望診) もともと顔色はよい 中肉中背 (身長157cm、体重53kg) ①

舌：淡紅②

聞診) 声力はしっかりしている。咳、喘鳴はない。③

問診) 2週間くらい前から同じクラスで発熱者が多数いた。④

突然の頃からの悪寒と発熱、その後の身体痛、四肢関節痛。⑤

項背部の凝り。⑥ 自汗はない。⑦

咳、喘鳴、鼻水、咽頭痛はない。排尿痛はない。嘔吐、下痢もない。⑧

生来健康。日頃は頻尿や夜間尿もなく排尿は良好。便通も良好。⑨

足腰は丈夫。皮膚に皮疹や掻痒、乾燥などの症状はない。⑩

暑がりでも寒がりや冷え性でもない。⑪

切診) 脈：浮、緊 ⑫ 腹：力やや強 ⑬

方証相對

以下の角度から特異的症候を分析し、方証相對を試みた。

- ▶ 八綱分類 : 陽 表 熱 実
- ▶ 六病位 : 太陽病位の傷寒
- ▶ 腹証 : 実
- ▶ 気血水 : 特異的症候所見特になし
- ▶ 五臓 : 特異的症候所見特になし

かぜ症候群の方剤と病態

漢方概論より抜粋

急性期もしくは太陽病位の方剤

- | | | | |
|--------------|---|--------------|------------------|
| ▶ 麻黄湯 | : | 太陽の実証 | |
| ▶ <u>葛根湯</u> | : | <u>太陽の実証</u> | <u>+ 首の後ろの凝り</u> |
| ▶ 桂枝湯 | : | 太陽の虚証 | |
| ▶ 小青竜湯 | : | 太陽の虚実間 | ・ ・ |
| ▶ 大青竜湯 | : | 太陽の実証 | ・ ・ |
| ▶ 桂枝麻黄各半湯 | : | 太陽の実証 | ・ ・ |
| ▶ 桂枝二越婢一湯 | : | 太陽のやや実証 | ・ ・ |
| ▶ 麻黄附子細辛湯 | : | 少陰の虚証 | ・ ・ |

傷寒論

太陽病位の外感病で項背部の症状

- ▶ 『太陽之為病、脈浮、頭項強痛、而惡寒』
- ▶ 『太陽病、或已發熱、或未發熱、必惡寒、體痛、嘔逆、脈陰陽俱緊者、名曰傷寒』
- ▶ 『太陽病、項背強几几、無汗、惡風者、葛根湯、主之』

まとめ

- ▶ 現代医学的診断は何らかのウィルス感染とし、かぜ症候群をとりあげて方証相対によって鑑別した。
- ▶ 本症の八綱分類は陽・表・熱・実である。
- ▶ 本症の六病位は太陽病位の傷寒である。
- ▶ 項背の凝りを併発している。
- ▶ 傷寒論の条文によれば、太陽病で、無汗（実証）、項背のこわばりのあるものには葛根湯を使うとある。
- ▶ 本症例は、基礎疾患のない中肉中背の青年である。
- ▶ 以上より、医療用漢方エキス製剤：葛根湯の標準量を1日分3で処方することとした。
- ▶ 翌日になっても発熱が続くときは、診断と治療の再検討を目的に再受診するよう指示した。

参考文献

▶ 漢方概論 藤平健